

アリマックス株式会社

Pick Up!

令和元・2年度

事業計画名

最新カッティングマシン導入による新用途製品開発と個別生産実現

概要

ギフト市場は堅調に推移しており、商品多様化に加えパーソナライズ志向からパッケージにもカスタマイズが求められる。

既存の抜型作成～抜き加工では実現できず、最新カッティング設備導入で高付加価値製品づくりを推進。

分類

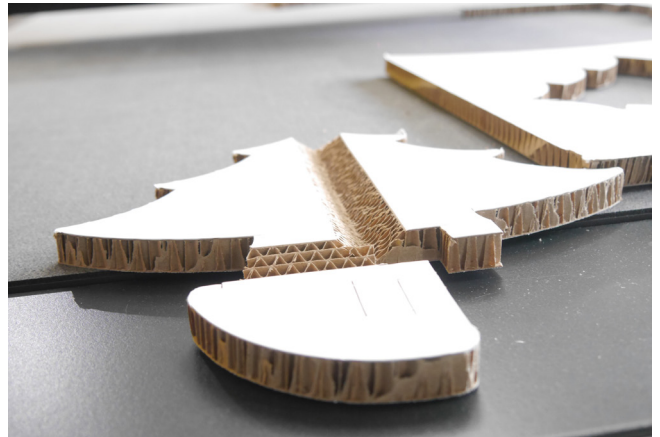
＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 一般型

成果

最新カッティングマシンの導入により、新しく社内展示用の段ボール製ブース・家具を製造。

メッセナゴヤ2020展示会への出展や社内見学会を実施し、販路拡大に繋げる第一歩となった。



様々なカッティングが可能



W200×D200×H220cm

自社製品「多目的簡易個室とダンボールベッド」



工場見学案内板



大型ダンボール自動打ち抜き機

好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

アリマックス株式会社（伊那市）

企画から印刷・製造までパッケージを一貫生産。
最新設備導入で新たな用途開発と受注拡大に成果。

パッケージを一貫生産

アリマックスは「有馬商事」として1952（昭和27）年、洋服函、紙袋、紙類の販売で創業。印刷紙器製品、段ボール製品、高級貼り函などパッケージを中心に、企画から印刷・加工、販売まで一貫生産しています。



社内ショールーム。ディスプレイもすべて自社製

「創業者は妻の父親。私と妻は公務員で同じ職場に勤務していましたが、どうしても継いでほしいという話になり、第一次オイルショックの時、2人で入社。私が社長に就任後、“有馬（ARIMA）”を残した現社名に変えました」と伊澤芳夫社長。

顧客の業種は伊那地域の主要産業である電機・電子部品関連から、菓子・酒などの食品、ギフト関連までさまざま。さらに一般向け商品も開発し、人気を集めています。

一方、東日本大震災を機に始めたのが非常時・災害時用グッズの開発。そこから展示会ブースや段ボールベッドなどの家具の製造へと広がっています。2021年には地元伊那市の要請に応え、新型コロナウイルスワクチン集団接種会場に設置する大型パーティションを開発し納入しました。

得意とするのは、色や柄のある紙の特性を活かし、透明や金などの特殊インクも使用可能なシル



強化段ボール製の家具

クスクリーン印刷によるパッケージ製作。さらに大型インクジェットプリンタにより、ディスプレイなど大きなサイズから立体物まで幅広く対応しています。

社員13人中、女性が11人

同社は2020年、最新デジタルマルチカッティングマシンを導入（令和元年度補正ものづくり補助金を活用）。展示ディスプレイや家具・装飾など、強化段ボールを使用した新たな用途の製品づくりが可能になり、個人向けギフトパッケージな

ど小ロット・個別製品に対応した試作・生産体制も構築しました。



毎年恒例の新年安全祈願祭

付加価値の高い製品づくりにより収益性を高め、新規顧客開拓にもつながる取り組み。その成果はすぐに現れます。日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2020」に自社製作ブースで出展。さらに社内ショールームを大幅に拡張し、3密回避を徹底した「ショールーム&デジタル工場見学会」（完全予約制）を開催。ワクチン接種ブースの受注も大きな成果のひとつです。

「見学会PRのためのチラシを制作し、地域にポスティング。見学者は歓迎看板を出してお迎えし、お土産も。それを企画しているのはすべて女性社員たちです。当社はコロナ禍の中、子育て中の主婦ら女性8人を新たに採用し、社員13人中、女性が11人。広報・POPの企画制作から営業、工場の機械操作、フォークリフトの運転、配達まで、1人何役もこなしています」。そう話す伊澤社長は満面の笑顔。とても誇らしげです。



最新デジタルマルチカッティングマシン（Kongsberg X24）

同社は長野県「社員の子育て応援宣言」にも登録。その「働き方」を見学に訪れる人も多いようです。



アリマックス株式会社

代表 代表取締役 伊澤 芳夫
設立 1952（昭和27）年3月
資本金 1,000万円
従業員数 13名
本社 伊那市狐島3805



TEL.0265-72-3558 FAX.0265-72-3591
事業内容 印刷紙器製品、段ボール製品、高級貼り函、強化段ボール製品、看板、ディスプレイ、POP等の製造・販売

<http://www.arimax.co.jp>